

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						3.2	
Q1 室内環境			0.40				3.3		
1 音環境		3.2	0.15				3.2		
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.40						
1.2 遮音		3.0	0.40						
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.60						
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—								
1.3 吸音	床、天井の二面に吸音材を使用	4.0	0.20						
2 温熱環境		3.0	0.35				3.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50						
1 室温	—	3.0	0.38						
2 外皮性能	—	3.0	0.25						
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.38						
2.2 湿度制御	—	3.0	0.20						
2.3 空調方式	—	3.0	0.30						
3 光・視環境		3.8	0.25				3.8		
3.1 昼光利用		4.2	0.30						
1 昼光率	昼光率:2.5%以上	5.0	0.60						
2 方位別開口	—								
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40						
3.2 グレア対策		3.0	0.30						
1 昼光制御	—	3.0	1.00						
3.3 照度	—	3.0	0.15						
3.4 照明制御	1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能	5.0	0.25						
4 空気環境		3.5	0.25				3.5		
4.1 発生源対策		3.0	0.50						
1 化学汚染物質	—	3.0	1.00						
4.2 換気		4.0	0.30						
1 換気量	換気量は30m <sup>3</sup> /h・人以上	4.0	0.33						
2 自然換気性能	—	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	給排気口の位置を異なる方位かつ6m以上離して設置	5.0	0.33						
4.3 運用管理		4.0	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視	—	3.0	0.50						
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50						
Q2 サービス性能		—	0.30				3.7		
1 機能性		3.2	0.40				3.2		
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40						
1 広さ・収納性	—	1.0	0.33						
2 高度情報通信設備対応	—	2.0	0.33						
3 パリアフリー計画	—	3.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30						
1 広さ感・景観	天井高3.0m	5.0	0.33						
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース:3.08%	4.0	0.33						
3 内装計画	—	3.0	0.33						
1.3 維持管理		4.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	清掃性及び防錆対策などの配慮	5.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.9	0.30				3.9		
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.6	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する	5.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	断熱サンドイッチパネル(フッ素樹脂焼付塗装)	5.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	タイルカーペット、ビニルクロス貼り、岩綿吸音板	4.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	排水(VP):B、冷媒(CU):C	4.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20						
2.4 信頼性		2.8	0.20						
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備	—	2.0	0.20						
3 電気設備	—	3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20						
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20						

3 対応性・更新性			4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満0.1以上	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重:4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用(BPI=0.59)	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		効率のよい設備機器を導入(BEI=0.48)	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギー消費内訳を把握できる	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		長尺塩ビシート(床)、岩綿吸音板(天井)	4.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGSS工法、ユニット部材の採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火設備を採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0	-	○	○	-	-	○	○	○	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	6.0	-	2.0	1.0	2.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.4 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 3.7 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 2.7%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 5.8㎡/人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 3 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 29.5㎡ レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 30 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.8m~5 m
3.1.2 空間の形状・ゆとり	壁長さ比率 13.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 5000 N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 22% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 59% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.59 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.48 住宅 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 フロアリウム、ソ自溶材指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 0.08
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0.01未満 地球温暖化係数(GWP) 3未満
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 85% 隣棟間隔指標Rw 1.77 地表面対策面積率 13.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 1.075㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 74.52 m 基準高さHb 29.65 m 緑地 615㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡